

気配を感じる

福祉工学に関する伊福部達先生の本の中に、耳という器官の優秀さが書かれている。

音によって鼓膜に生じた振動は、いくつかの器官を通り、耳のうずまき管の基底膜を振るわせて中枢神経に「聞こえる」。伊福部先生によると、やっと聞こえる程度の小さな音を感じているときの基底膜は、水素原子核の直径程度の振動しかないらしく、「恐らく生物が極限まで達して獲得した最も感度の良い振動センサー」だろうとのことである。

気配を感じるのも耳の機能によるらしい。先生のいう「気配」とは、目をつぶった状態で、自分の周囲にある障害物や壁を感じる能力である。全盲の人の多くにこのような能力があることが昔から知られていて、気配を感じ取るのは皮膚なのか、耳なのか、それとももっと別なオカルト的なものなのか、といった検証が行われてきた。1940年代に耳であることが実証されたとのことである。身の回りにはいろんな音があって、それが自分の周囲にある障害物や壁で反射している。耳はそれらの音を受け取っていて、目をつぶっていても、それらの物の大きさや自分からの距離を感じることができるらしい。人間は太古から気配を感じる能力を持っていて、全盲の人はその感覚が強く発揮されるという。

江戸時代を描いた時代小説では、暗がり歩いている最中に刺客の気配を察知して白刃をかわす場面がたびたび出てくる。海坂藩ではたびたび起きることである。そんなことあるのかなあと思っていたが、伊福部先生の本を読んで得心した。今の世の中で白刃は迫ってこないだろうけれど、道を歩くときは耳も使うのが良さそうである。

(水利基盤チーム 上席研究員 中村 和正)

おことわり

寒地土木研究所月報をご愛読いただき、ありがとうございます。

本年から、1月号の「年頭所感」を除き巻頭記事の名称「所感」を「論説」へ変更いたしました。

これまで「所感」として取り扱ってきたものをより技術情報誌としての内容へ充実を図り、あわせて名称を変更したものです。

今後とも本誌が、寒冷地土木技術の向上のための一助となりますように努めて参ります。

<編集委員会委員長>

* * * *

表紙左上記号 ISSN 1881-0497の説明

国際的なコード番号である ISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館 ISSN 日本センターから付与されたものです。